

予算額

18,206,750 円

## トップアスリートによる巡回指導

巡回指導先団体総数	19 団体			
巡回指導先団体内訳	総合型クラブ	スポーツ少年団	学校	その他
	3 団体	0 団体	12 団体	4 団体

トップアスリート総数	16 名			
トップアスリートの内訳 (大会出場別)	オリンピック	国際大会	全国大会	その他
	0 名	3 名	8 名	5 名

アシスタントコーチ総数	14 名
-------------	------

指導種目	レスリング、サッカー、ソフトテニス、アイス/ローラースケート、ソフトボール
------	---------------------------------------

## ◆効果をもとめるための工夫や取組など

- ・ 受け入れ校に事業の趣旨を理解して頂くため、各校を訪問した。
- ・ 活動への理解を得るために、教育委員会等と連携し、校長会での事業説明の機会を頂いた。
- ・ 受け入れ先の要望を事前に調査したり、トップアスリートの方との打ち合わせを行うことで活動が円滑に進むように配慮した。
- ・ 各団体での成果や課題を共有することを目的に、定期的な活動報告会を実施した。その際、多角的な意見を得るためアスリートの方だけでなく、総合型クラブ、教育委員会や市役所の方々にも参加頂いた。

## ◆成果と課題

## 〔成果〕

- ・ 渋川市全体でスポーツ活性化構想に取り組む体制が検討された。
- ・ 本年度は7校への巡回指導であったが、来年度は9校からの要望が来ている。
- ・ 中学校の部活動の今後について、総合型クラブとの関係が話題になっている。
- ・ 渋川市体力向上・元気アップ事業推進委員会の事業に本事業が位置づけられた。
- ・ スポーツ少年団から中学、高校への移管育成システムについての議題が検討されるようになった。

## 〔課題〕

- ・ トップアスリートの人材不足。
- ・ 中学校の部活動の場合は、運動部活動の目的とトップアスリート巡回指導の目的の不一致が感じられる。
- ・ 総合型地域スポーツクラブへの巡回指導は、地域への広報活動が課題である。
- ・ 日没時間が早い冬場の屋外種目の練習場所や場所の確保が課題である。
- ・ 上記課題解決のための土曜・日曜などの合同練習の位置づけや移動手段が課題である。

取組の名称	スポーツ文化を通じた渋川市活性化				
趣旨・目的	スポーツコミュニティの形成促進から渋川市がかかかえている課題を解決し、活性化を試みる。現在の課題は、6市町村が合併後の新渋川市を包括する共通コミュニティの欠如、子どもの体力が全国平均以下、医療費の年次増加傾向、部活動の低迷、総合型地域スポーツクラブが1クラブのみ設立、またスポーツ施設の利用率の低下等であり、その解決を目指す。				
内容	①市民への健康調査(ブドウ糖負荷試験・体力測定)と評価 ②子どもたちへのスポーツ教室の開催 ③トップアスリートによる実技指導の開催 ④体育指導員や自治会長へのワークショップの開催 ⑤市民への渋川市オリジナル健康体操の創作と指導・普及 ⑥スポーツ少年団保護者へのスポーツと栄養講座の開催 ⑦健康づくりシンポジウムの開催 ⑧生活習慣病予防講座の開催				
対象者	渋川市民及び周辺自治体	参加人数	2750名	実施回数	12回
効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報、施設の利用や事業への協力者を得るために、渋川市全体の事業として位置づけ、渋川市との共催事業とした。</li> <li>・ 関係者の理解を得るために事業完了後にアンケートを取り、内容を公表した。</li> <li>・ 専門的な見地を得るために他機関と連携し、本事業に関わって頂いた。</li> </ul>				
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本事業に対して自治体が積極的に協力体勢を取るようになった。</li> <li>・ 事業のアンケート結果から、本事業への高い評価が得られた。</li> <li>・ 多くの組織が本事業に関わり、この時点でスポーツコミュニティが形成促進された。</li> </ul>				
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自治体の関係部局間とのより高い連携をはかる必要がある。</li> <li>・ 市の取組の一環として位置付けてもらうことでより効果が高まる。</li> <li>・ 関係する組織が納得する年間スケジュール</li> </ul>				

## 小学校体育活動支援

派遣先学校総数	4 校
コーディネーター総数	7 名

### ◆効果を高めるための工夫や取組など

- ・「事前の話し合い」  
支援小学校毎にプロジェクトリーダー、コーディネーター、受入学校代表者・教務担当者・体育担当者、そして教育委員会学校教育課等と希望調査や細かい打ち合わせを行った。
- ・「コーディネーター教育」  
NPO代表者が1人1面談を実施した。また小学校体育についての講習やコーディネーターとしての役割についての講習会を開いた。

### ◆成果と課題

#### 〔成果〕

- ・ 渋川市体力向上・健康元気アップ事業推進委員会の事業に本体育活動支援が位置づけられた。
- ・ 本年度は4校への体育活動支援であったが、来年度は8校からの要望が来ている。
- ・ それぞれ小学校の事情に合わせた活動支援がより高い成果をもたらした。
- ・ コーディネーターが大学院生であったこともあり、コーディネーターの現場体験学習効果があった。
- ・ 体育活動支援を定期的に評価する仕組み(小学校・NPO・教育委員会の連携)ができつつある。
- ・ 本年度の活動支援、評価が次年度の構想に活かされると思われる。
- ・ どの学校からも大変有意義であったと評価しており、特に技術指導については高い評価であった。
- ・ 子どもからは、毎日来て欲しいと言われる。

#### 〔課題〕

- ・ 小学校の事情に対応できる適任者・コーディネーターの確保
- ・ 事前に年間授業計画と活動支援体制を整える必要がある。
- ・ コーディネーターへのワークショップが必要。
- ・ 支援する小学校の体育授業の実態把握、あるいは評価が必要。
- ・ コーディネーターの日程と授業時間の調整が難しい。
- ・ 合同体育など、児童の人数が多くなりすぎるとコーディネーターの力が発揮できにくい。
- ・ 放課後の運動遊びへの積極的な支援が必要。
- ・ コーディネーターの教職員としての位置づけ、例えば勤務日の居場所、更衣室、打合せ場所等を検討する必要がある。

## 本事業全体の成果と課題

### 〔成果〕

- ・ 「トップアスリート巡回指導」は、主にソフトテニス「7中学校(渋川市は全部で10中学校)」と「1総合型地域スポーツクラブ(渋川市は1クラブだけ)」の巡回指導、サッカーは「5中学校」と「1総合型地域スポーツクラブ」、そしてレスリング、スケート、インラインスケート等を総合型地域スポーツクラブへ派遣することが出来た。特に渋川市は、地域的にソフトテニスとスケートが非常に盛んであり、地域性を活かしたトップスポーツの好循環を創出することが出来た。
- ・ 「小学校の体育等の支援」は、4小学校へ延べ11名のコーディネーターを派遣することが出来た。支援先の小学校の主な課題は、教師の高齢化等から体育授業の実技指導に大きな課題を抱えており、本支援によりその課題は多いに解消されたと思われる。
- ・ 支援先小学校からの要望により放課後支援も行ない遊び・スポーツ練習等を通し児童達に運動の楽しさを伝えることが出来た。
- ・ 「地域課題解決の取組」は、自治体との協力体制が取ることが出来、講演会、健康調査、スポーツ実技講習会、シンポジウム、健康推進ワークショップ等特に地域の健康問題等の事業を実施することが出来た。
- ・ 本事業の推進にあたり多くの組織が関係したことから本事業が目指すスポーツコミュニティの形成促進がある程度達成されたと思われる。

### 〔課題〕

- ・ 今後の課題としては、本事業の推進にあたり自治体の関係部局間との連携をより図りより多くの人々が関わるような仕組みを構築して行きたい。
- ・ 今後の大きな課題として、本事業を渋川市レベルに位置づけ、スポーツを通じた市民活性化構想として発展させて行きたい。